

デジタル通貨勉強会

第1回

2020/6/4

第1回 アジェンダ

1. 参加者のご紹介 . . . 20分

2. 本勉強会の実施背景

背景の共有	. . . 10分
質疑	. . . 10分

3. 既存の決済インフラの課題とデジタル通貨のコンセプト

課題とコンセプトの共有	. . . 15分
質疑	. . . 10分

4. 本勉強会の論点

論点の共有	. . . 10分
質疑・討議	. . . 30分

アジェンダ

1. 参加者のご紹介 . . . 20分

2. 本勉強会の実施背景

背景の共有	. . . 10分
質疑	. . . 10分

3. 既存の決済インフラの課題とデジタル通貨のコンセプト

課題とコンセプトの共有	. . . 15分
質疑	. . . 10分

4. 本勉強会の論点

論点の共有	. . . 10分
質疑・討議	. . . 30分

参加者のご紹介

所属

座長	フューチャー株式会社 取締役（元日本銀行決済機構局長） 山岡 浩巳 様
金融	株式会社三菱UFJ銀行
	株式会社三井住友銀行
	株式会社みずほ銀行
流通	株式会社セブン銀行
通信	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
	KDDI株式会社
	株式会社インターネットイニシアティブ
運輸	東日本旅客鉄道株式会社
有識者	森・濱田松本法律事務所
オブザーバ	金融庁
	財務省
	日本銀行
	総務省
	経済産業省

アジェンダ

1. 参加者のご紹介 . . . 20分

2. 本勉強会の実施背景

背景の共有	. . . 10分
質疑	. . . 10分

3. 既存の決済インフラの課題とデジタル通貨のコンセプト

課題とコンセプトの共有	. . . 15分
質疑	. . . 10分

4. 本勉強会の論点

論点の共有	. . . 10分
質疑・討議	. . . 30分

デジタル通貨を取り巻く環境

ブロックチェーン技術の成熟を背景に、グローバルでは官民で新たな取り組みが始まっている。新たな決済インフラとしてのデジタル通貨の重要性が高まっている

国内&グローバルの環境変化

政府・官公庁の動向

- G20やFSBにおけるクロスボーダー決済改善の必要性検討
- キャッシュレス決済における低コストかつ利便性の高い決済への要請(公正取引員会報告書)
- デジタル人民元等の中央銀行デジタル通貨の動き
- Society5.0実現への要請

政府や国際機関レベルで新たな決済インフラへの取り組みが進む

民間の動向

- Facebook-Libraの登場
- ステ이블コインの勃興(USDC等)
- デジタル通貨への取り組み加速(企業によるPoC等)

民間レベルでデジタル通貨への取り組みが加速

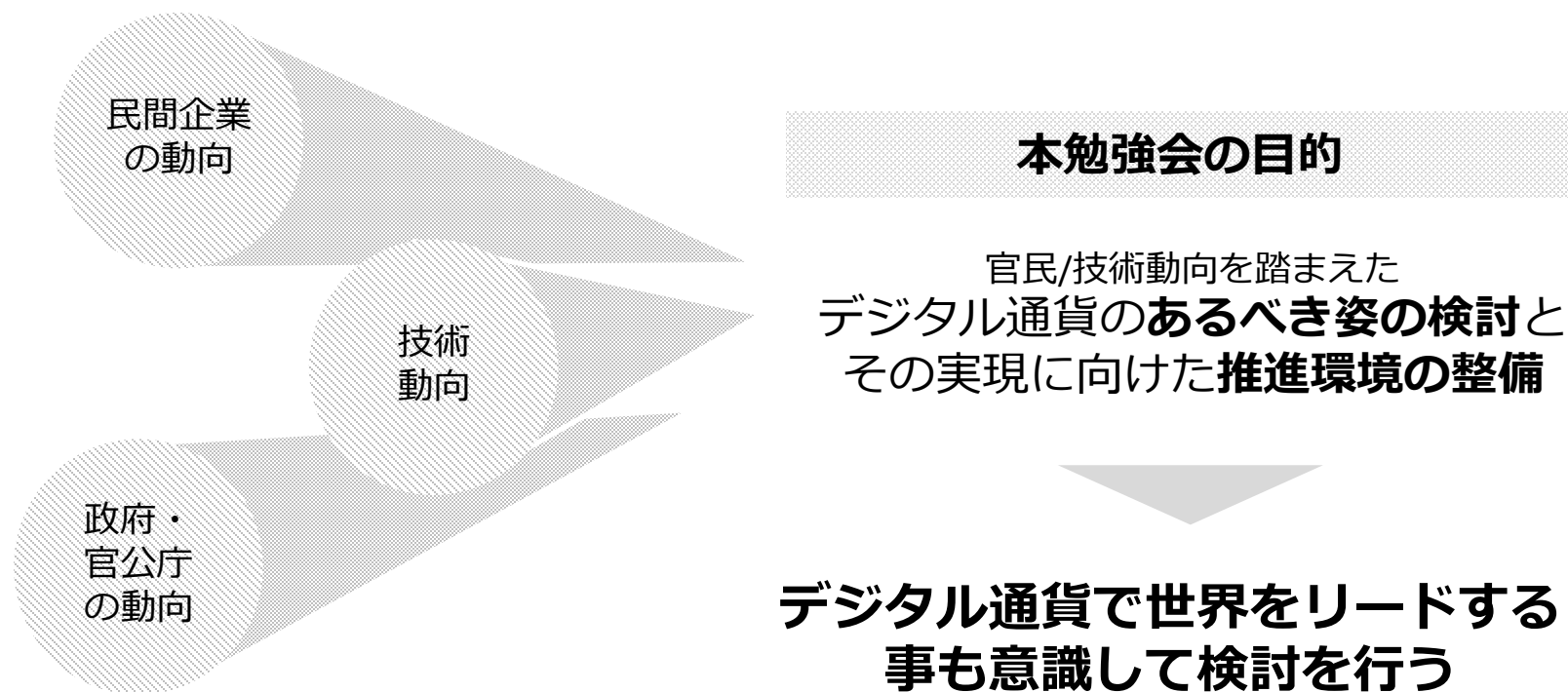
技術動向

- ブロックチェーン/分散台帳技術の成熟
- スマートコントラクトへの期待の高まり

ブロックチェーンやスマートコントラクト技術は社会実装へ

本勉強会の目的

グローバル動向、新技術の進化、国内既存決済インフラの課題を踏まえ、日本国内においても、デジタル通貨のあるべき姿の検討が求められている



デジタル通貨とは

日本におけるデジタル通貨の標準モデルを検討する必要がある

	分類	裏付資産	準拠法	サービス例	発行体(例)
デジタル通貨？ ↑	前払式	法定通貨	資金決済法	Suica	事業会社
	資金移動残高			PayPay	事業会社
	プログラマブルマネー			DeCurret	事業会社
	銀行型	一部法定通貨	銀行法	Jcoin	銀行
	ステーブルコイン		—	Libra USDC USDT	事業会社/ コンソーシアム
	デジタル通貨 (新たな定義?)	法定通貨		—	銀行/ コンソーシアム



デジタル通貨の新たな定義も選択肢のひとつとして、
日本における標準モデルを検討

アジェンダ

1. 参加者のご紹介 . . . 20分

2. 本勉強会の実施背景

背景の共有	. . . 10分
質疑	. . . 10分

3. 既存の決済インフラの課題とデジタル通貨のコンセプト

課題とコンセプトの共有	. . . 15分
質疑	. . . 10分

4. 本勉強会の論点

論点の共有	. . . 10分
質疑・討議	. . . 30分

決済インフラの課題

デジタル通貨は決済インフラにイノベーションを起こし、日本経済や企業活動、市民生活の質の向上や、with/afterコロナにおける経済成長に寄与し得る

決済インフラ において取り組むべき課題

デジタル通貨による イノベーションの狙い

経済社会の コスト低減

- 現金ハンドリングコスト削減
 - ✓ 銀行：店舗・ATM運営コストなど
 - ✓ 企業：小売・物流等の現金受渡し・保管・輸送コスト
- 取引・バックオフィス事務の効率化
 - ✓ 商・物・金流のデータ自動処理化
(スマートコントラクトの利用)

経済取引の リスク低減

- 24時間・365日-リアルタイム決済の実現
- スマートコントラクトによるモノ・証券・資金の同時決済

イノベー ション促進・ 経済高度化

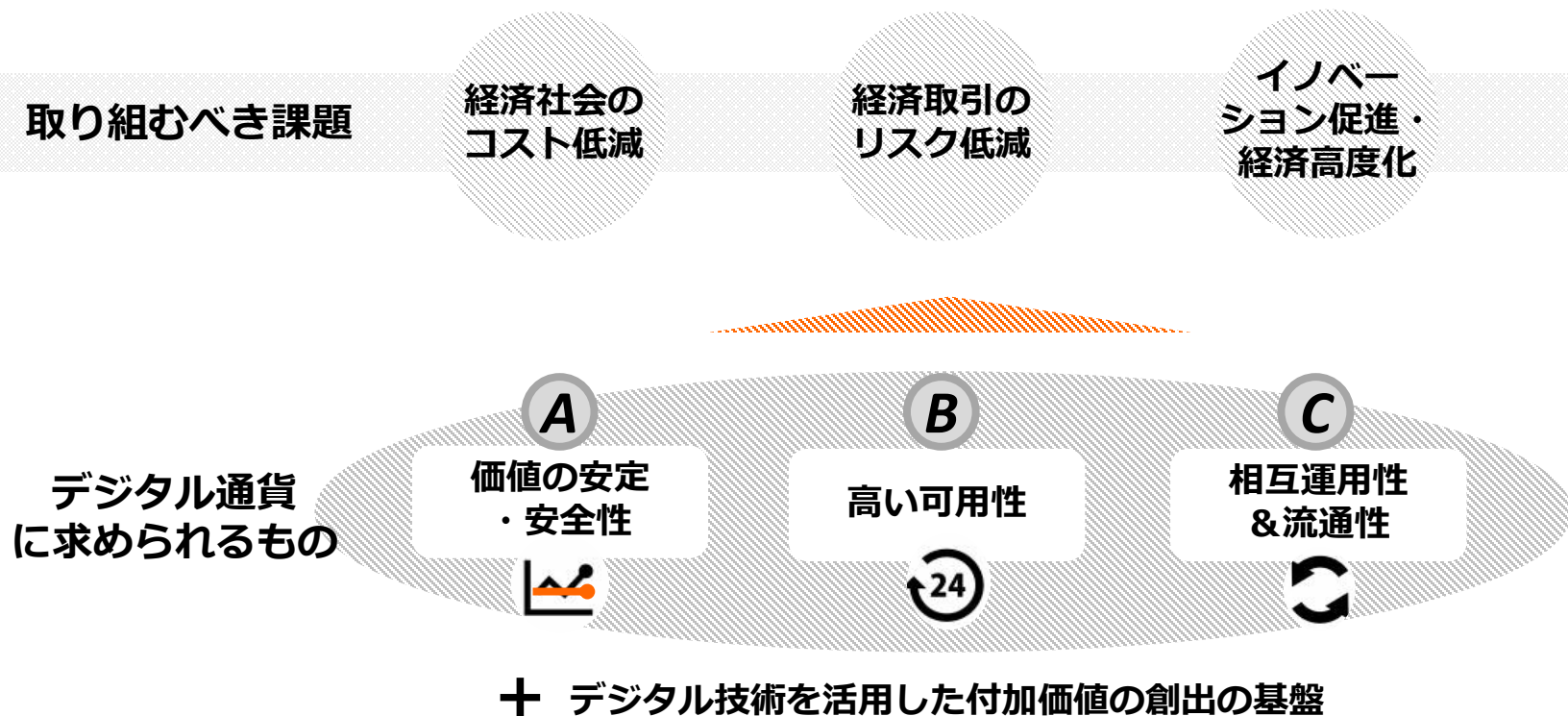
- 商・物・金流にまたがるデータの有効活用によるイノベーション実現
- プライバシー保護とデータ活用の両立

世界をリードする決済インフラを構築し…

- 日本経済の効率化、企業活動や市民生活の質の向上、経済厚生拡大
- COVID-19後の経済の成長性・頑健性向上にも寄与

デジタル通貨のコンセプト（案）

デジタル通貨によって経済社会のコスト低減、取引のリスク低減、イノベーション促進を実現する為には、価値の安定と高い可用性、相互運用性が求められる

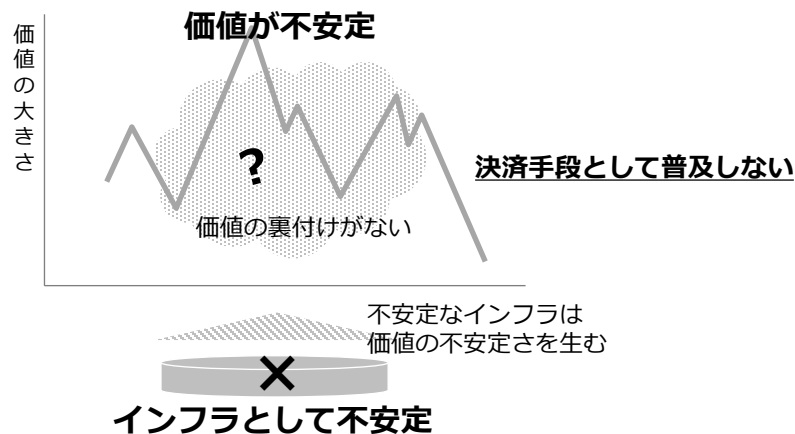


デジタル通貨のコンセプト（案） - 価値の安定・安全性 A

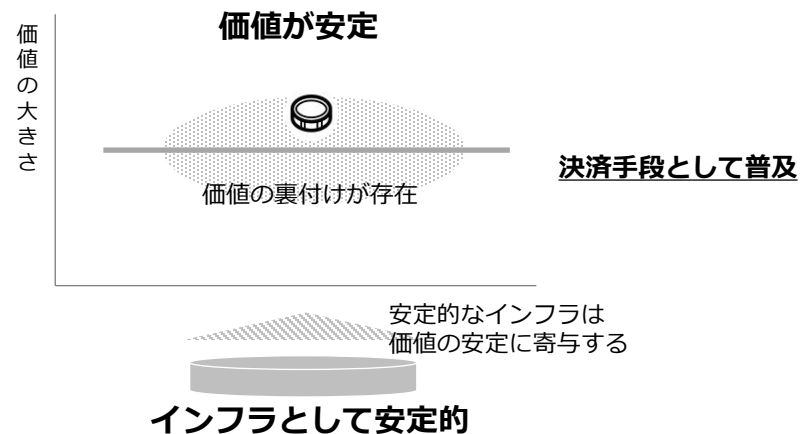
人々が信頼でき、価値が安定したモノでなければ、支払決済手段には使われにくい。
インフラの安定性も含めた、「安定・安全性」の担保が重要

✓ デジタル通貨に求められるもの

価値の安定・安全が欠如



価値が安定・安全



3
イノベーション促進



価値の安定性に欠け、かつ信頼性の低いインフラの元ではイノベーションは起きえない

3
イノベーション促進



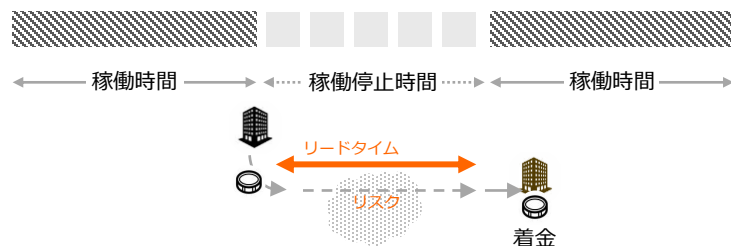
人々に信頼され価値が安定したインフラをベースに多様なイノベーションが創出される

デジタル通貨のコンセプト（案） - 高い可用性 B

24時間365日止まらない決済インフラによって、経済取引のリスク低減が可能。
稼働時間の制約を受けない現金のメリットを継受しつつ、現金が使いにくい支払決済にも利用可能なインフラが求められる

限定的な可用性

24時間365日稼働しない決済インフラは、決済のリアルタイム性に欠け、取引上のリスクを生む。



2
経済取引の
リスク低減

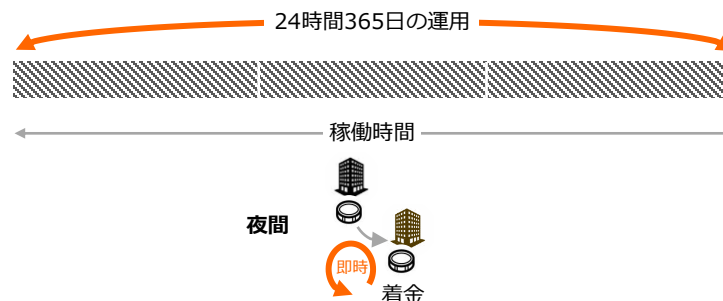


決済インフラに非稼働時間が存在すると、即時に決済できず、リードタイムとリスクを生む

✓ デジタル通貨に求められるもの

高い可用性(24時間-365日)

新たな決済インフラは24時間365日の稼働が要件
いかなるタイミングにおいても、即時にトランザクションを反映可能なインフラが理想



2
経済取引の
リスク低減



24時間365日止まらない決済インフラによって、リアルタイム性を実現。経済取引のリスクを最小化

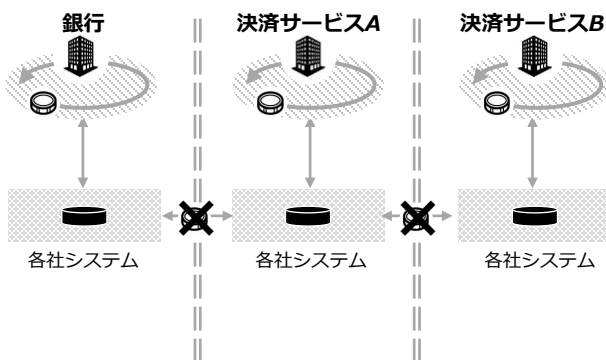
デジタル通貨のコンセプト（案） - 相互運用性&流通性 C

多様な企業、経済圏間での相互運用性を担保し、現金類似のネットワーク外部性を実現する新たな決済インフラが求められる

✓ デジタル通貨に求められるもの

相互運用性・流通性の欠如（サイロ化）

各企業や経済圏が個別にデジタル通貨のプラットフォームを構築するとシステムがサイロ化され、無駄なコストやオペレーション、リードタイムを生む



1
コスト低減 ✕

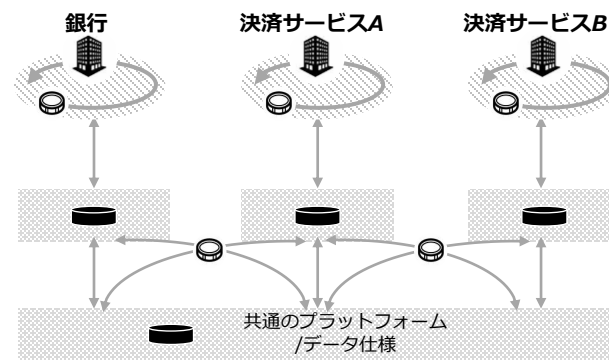
サイロ化されたシステムを横断する 위해서는、仲介者や中継システムを経由するコストがかかる
(例：コード決済事業者の加盟店の銀行口座への出金の際に、中継銀行を挟む必要がある 等)

3
イノベーション促進 ✕

各社システムがサイロ化されており、データの有効活用が困難。企業横断のイノベーション創出の障壁に。

相互運用性・流通性の担保

各企業が共通のデータ仕様やプラットフォームを利用することで、価値交換をシームレスにし、高い流通性を実現。コストやオペレーションが最適化され、リードタイムは短縮される



1
コスト低減 ○

各社システムをつなぐ仲介者や中継システム、データの変換等が不要で、仲介者を経由する手数料なども不要

3
イノベーション促進 ○

企業横断のデータ活用が促進されイノベーション創出の基盤となり得る

アジェンダ

1. 参加者のご紹介 . . . 20分

2. 本勉強会の実施背景

背景の共有 . . . 10分
質疑 . . . 10分

3. 既存の決済インフラの課題とデジタル通貨のコンセプト

課題とコンセプトの共有 . . . 15分
質疑 . . . 10分

4. 本勉強会の論点

論点の共有 . . . 10分
質疑・討議 . . . 30分

本勉強会の論点

1 デジタル通貨はなぜ必要か

- 1 グローバルでどのような取組みが進んでいるか
- 2 どのようなイノベーションがもたらされるか、デジタル通貨の優位性は何か

2 デジタル通貨でどのようなイノベーションを実現したいか

- 1 デジタル通貨で解決可能な課題は何か
- 2 デジタル通貨でどのような社会を実現可能か

- 発行機関の形態はどうあるべきか
- 相互運用性の観点からどのような役割が求められるか

3 デジタル通貨をどのようなスキームで発行・流通すべきか

- 1 各プレイヤーはどのような役割を担うべきか（金融機関、事業会社等）
- 2 どのようなシステムが必要とされるか
- 3 現行法の範囲内でどのように実現すべきか

- どのようなアーキテクチャとすべきか
- 決済・取引情報のデータ仕様はどうあるべきか
- 相互運用性の観点からどのようなシステムが必要か

4 各インダストリー、ユースケースでどのように利用されるか

- 1 各インダストリー、ユースケースにおけるフローや、インターフェースはどうあるべきか

- 現行法の枠組みで実現可能な範囲はどこまでか。どのような解釈が可能か